

(要旨)

定 例 経 営 会 議 ・ 議 事 録

年 度	令和2年度	回 数	第2回
日 時	令和2年4月28日	午前9時30分～11時20分	
場 所	第2委員会室(本庁舎6階)		
出 席 者	渡部市長 野崎副市長 松谷副市長 村木教育長 南部議会事務局長 野口会計管理者 間野経営政策部長 荒井総務部次長 武岡地域創生部長 清水市民部長 高柳環境安全部次長 大西資源循環部長 花田健康福祉部次長 瀬川子ども家庭部長 粕谷まちづくり部長 田中教育部長 欠席者:東村総務部長 平岡環境安全部長 山口健康福祉部長		
次 第	1. 開会 2. 協議事項 (1) 新型コロナウイルス感染症対策事業について 3. 報告事項 (1) 市議会6月定例会提出予定案件・所信表明事項について (2) その他 4. その他 5. 閉会		
会 議 経 過	次頁参照		

1. 開会(市長あいさつ)

・新型コロナウイルス感染症パンデミックの中での新年度スタートで異例づくしの1か月だったと思うが、今のところ市内からは感染者は出ていない。緊急事態宣言が出て3週間で、昨日、一昨日の都内感染者も2日連続して2桁ということで、少しずつ宣言の効果が出ているのではないかという見方されている。現在、市内では感染者6名で、人口比では周辺自治体に比べても比較的少ない。心配されている市内に数多くある病院や老健介護施設、保育園や児童クラブといった、どうしても止めることができない施設内での感染を心配しているが、各施設の皆さまのご努力で感染がない状況だ。市民の皆さんにも注意喚起を呼びかけなければならないということで、私も市長からのメッセージとして動画撮影し市ホームページにアップし、改めて連休中の外出自粛について呼びかけさせていただいた。

・連休明けの対応については、公立学校について5月7日、8日は休校することを決定したが、国から緊急事態宣言を延長するのか、または解除なのか明確に出されていない状況なので、各公共施設について早急に判断する必要がある。

・連休明けの市内の勤務体制についても緊急事態宣言が解除されない場合は、引き続き交代制勤務、分散勤務を継続せざるを得ないと考えている。窓口を訪れる市民の方も減少しているのは事実だが、持続可能な勤務体制をどのように構築していくか、各部署で検討をお願いしたい。

・順調にいけば4月30日に国の補正予算が成立するが、すぐに市としても特別定額給付金関係の予算の専決処分を5月1日に行いたいと考えている。その後も、国・東京都から新型コロナウイルス対策関連経費としての交付金が配分される見込みだが、新型コロナウイルス感染拡大防止と、急激な経済悪化に伴う市民生活へのさまざまな影響を鑑みて、補正予算を編成しなければならないと考えている。また、国からの方針で国民健康保険税や介護保険料については減免することとなるので、こちらも6月定例会に議案提出の予定となる。その他でも、各部署で市民や事業者からの声を聴き、減免等を検討したいものがあれば、6月定例会に間に合うように進めていただきたい。

・6月定例会に提出する補正予算のメインとして考えているのが、学校が休校になっている状況下において、今後、学校再開にしても第2波、第3波の恐れもあると言われており、文部科学省が進める「GIGAスクール構想」において、令和2年度当初予算編成でも検討していた児童生徒用のタブレット端末導入について、今回の補正予算で前倒しし進めることとしたいと考えている。また、合わせて市職員の在宅勤務の本格的導入に向け、リモートワーク対応の端末を導入したいと考えており、情報所管に検討をお願いしている。

・連休中、連休前、6月定例会に向けての対応、そして、それ以降も対応と時間軸をいくつかに分けて考えていきたい。今回の新型コロナウイルス感染症は、多くの識者が言っているように長期化することが危惧されており、今年の経済動向については、IMFが発表した我が国の予想は6%近い経済縮小とも言われている。経済回復を見込むにしても長期間景気が低迷し、雇用も縮小する可能性が高い、そうした影響が市民生活にどのように直撃してしまうのかを考えると、本来、6月定例会に提案予定だった令和3年度からの第5次総合計画の基本構想については、6月

定例会での議案提出は見送りたいと判断している。新型コロナウイルス感染症拡大における医療面、市民の生活面、経済面、さまざまな面に及ぼす影響を鑑みて、第5次総合計画をゼロから再構築するつもりはないが、基本的な考え方としての持続可能なまちづくりを進めていくという基本的な考えは新型コロナウイルスの影響があってもなくても変わらず、基本軸はブレることはないが、当面は新型コロナウイルス感染拡大による様々な影響や弊害をどのように克服していくかということが、前期5年間は主題になるであろうことも想定すると一定の計再構築は避けられないと考えている。今回、第5次総合計画と同時に策定を進めている4つの計画についても、新型コロナウイルスの影響が出てくるはずなので、その辺も十分踏まえて、今後どのようなことが想定されるか検討し、中長期的な計画展望を考えていきたい。

・暫くは「距離を保ちつつ、心は繋いでいく」ことがキーワードとなる。今後進めるICT技術の加速化は大きな施策の流れとなる。全部の業務は無理でも、まずは1/3程度の業務についてはテレワーク対応ができるような業務の進め方に転換していきたい。Society5.0を見据えた大きな転換ということになるので、この新型コロナウイルスの問題を逆に転機とし、東村山市におけるSociety5.0を押し進めていくことをみんなで確認できればと思っている。しかし、この間、進めてきた東村山市らしい、フェイス to フェイスでの健康寿命の延伸、顔を見える関係での子育て支援、教育の充実といったことが、できるだけ人が集まることを控えることになるので、これまで進めてきた施策とは異なる形となってしまふ。地域コミュニティ形成しながら、相互に健康寿命の延伸をしてきたが、そこに対してどういう手立てを講じていくのか、子育て分野においても、孤立させないで、地域丸ごと子育て支援ということを掲げてきたが難しくなってしまう。虐待等の事例が見えづらい状況になることも危惧されており、今後有効な策を取り入れるかについては英知を結集していく必要があると思う。重大な局面に我々は立たされていることを幹部職員には自覚していただき、15万市民の健康と安全を守りつつ、さらに東村山市が持続可能なまちとして発展できるよう英知を結集していかなければならないと思っている。ぜひ遺漏ないよう取り組みを進めていただくようお願いする。

2. 協議事項

(1) 新型コロナウイルス感染症対策事業について

・国の新型コロナウイルス対策、及び東京都の新型コロナウイルス対策への自治体への交付金を計上した補正予算が成立したことにもない、当市の新型コロナウイルス感染症対策事業の予算編成に向けて意見交換、情報共有を行った。

3. 報告事項

(1) 市議会6月定例会提出予定案件・所信表明事項について

4. その他

〈洪水ハザードマップの更新について〉

・平成22年に配布したハザードマップを更新。文字はユニバーサルフォントを選択し、おもて面は日本語、英語、中国語、ハングル語。うら面は、日本語、英語の2か国対応。市報と一緒に全戸配布予定。同時にホームページ、防災ナビでも見られるよう対応予定。

〈次亜塩素酸水について〉

・市内事業者の(株)ふいつしゅいんてりあ様から申し出があり、次亜塩素酸水を作る機械を所有していることから、市でアルコール消毒液が不足して困っているようであれば、協力できるというお話をいただいた。庁内での必要量を確認し必要があればご協力いただく方向で調整していきたい。

〈各分野別計画について〉

・新型コロナウイルス関係で、審議会等に遅れ、中止が出ているが、今般の状況をふまえ、臨機応変に進めていただきたい。

5. 閉会(副市長)

・コロナの状況、先が見えない状況であるが、その時々をの情報を共有して、全庁で対応していきたいと思う。